

親と子の進路計画説明会（先週実施）

先週の金曜日（17日）放課後、『親と子の進路計画説明会』を実施しました。2年生は33名（+保護者の方数名）が参加しました。「資料だけほしい」と取りに来た人もいましたが、その後資料に目を通しているでしょうか？当日出席できなかった人のために、話の概要を載せておきます。

教育費の現状

現在高校の授業料は無償化されている（来年からは全員無償という訳にはいかなくなるのですが）ので、1年間に必要な教育費は、学校で集める学年費（3万円未満）や教科書代などで、それほど高額ではありません。

ところが、大学や専門学校に進学したとたん、支払額は跳ね上がります。君たちの進路で一番多い「私立の学校に自宅から通う」というパターンでは、

①入学（2015年の4月）までに→約130万円

②入学後も1年間につき→約130万円 必要になります。

他府県の学校に下宿などして通うとなると、これに住居費や生活費がプラスされます。バイトをしている人なら実感できると思いますが、130万円稼ごうと思ったら、時給800円で1625時間、月曜から金曜まで毎日6時間バイトしても足りません。

奨学金 でも、もらえる訳じゃない

では、お金を用意できない人には進学は無理なのでしょうか？そういう人たちのためのシステムが「奨学金」制度です。これは、在学中に毎月決まった金額のお金を借りて、卒業後働きながら長期間にわたって返済していくというものです。もらえる訳ではありません。返さなければなりませんし、利子も付きます。その意味では「奨学金」は「ローン」と同じものです。

奨学金の中で最も一般的なのは「日本学生支援機構」の奨学金です。長野北高校でも、毎年100人前後の人が申し込みます。審査に通りやすいことと、高校3年生のうちに予約できることがメリットです。

シミュレーション

仮に月5万円奨学金を借りるとしましょう。1年間では60万円ですから、これでも学費にはずいぶん足りません。不足分は親か自分で何とかするという前提です。大学4年間借りると240万円。利子がつくので返還総額は280万円ほどになります。

これを毎月1万5千円ほど、15年間180回にわたって返していくのです。

「もう少し借りたい」という人には8万円コースや10万円コースなどもありますが、当然毎月の返済額や返済期間は増えていきます。(10万円コースでは毎月2万5千円ほどを20年間返していきます)

返せないと…

奨学金は「借金」なので、返済が滞ると金融機関の「ブラックリスト」に載ってしまい、その後クレジットカードは使えなくなるし、マイカーローンや住宅ローンが組めなくなります。人生設計が大きく狂ってしまうのです。大学を卒業して就職したとたん数百万の借金を抱えてしまう訳ですから、それなりの覚悟が必要です。

時間差があるので注意

さらにもう一つ、とても大事なことがあります。それは奨学金を借りるにしても、「学校への最初の納入には間に合わない」ということです。入学金や授業料は、合格発表後2~3週間のうち(早ければ10月~12月)に払い込まねばならないのに、奨学金はまとめてもらえる訳ではないからです。(入学後2~3カ月してから、毎月数万円ずつ振り込まれます)学校にお金を払うことができなければ、せっかく合格しても取り消しになってしまいます。

そこで、「奨学金以外にもお金を工面する」ことが必要になります。これが「教育ローン」です。「国の教育ローン」や「銀行の教育ローン」などがありますが、返済期間は短期間(つまり1回あたりの返済額が大きい)で、君たちが就職するまで待ってくれません。借りたあとすぐに返済が始まりますので、基本的には君たちの保護者の方が借りるということになります。

家での話し合いが必要

こんな話があります。その生徒は短大に行きたいという希望がありましたが、合格すれば親もお金を出してくれるだろうと思いこんでいて、お金の話を親とちゃんとしていませんでした。ところが、11月に出願をするときになって、親から突然「家計が苦しいので学費は出してやれない」と言われました。泣く泣く進学をあきらめて、就職しようと思ったのですが、その頃には就職試験もほぼ終わっていて、結局その生徒は進路が決まらないまま卒業してしまいました。

こういうことにならないために、今から家でしっかり学費の話をしてください。特に兄や姉がいなくて、兄弟で進学するのは自分が初めて、という人は、家の人も教育費の話はよく知らないはずです。自分の進路ですから、親任せにしないで自分の目と耳と足で情報を集めていきましょう。

明日の分野別説明会も、この話を踏まえたうえでしっかりと聞いてほしいものです。